

今号の内容

1. 教文会議長あいさつ
2. 第2回運営委員会報告

教文通信アーカイブス

教文通信 No.1 (電子版)

新型コロナウイルス感染症
禍でのアンケート結果

教文通信 No.2 (電子版)

ジェンダー平等の教育を考
える総研資料

教文通信 No.3 (電子版)

職場教研報告

教文通信 No.4 (電子版)

上西充子さん (法政大学
教授) 講演会報告

教文通信 No.5 (電子版)

松川高校・理科研究会・教
文運営委員会報告

教文通信 No.6 (電子版)

「学びの『指標』(案)」討
議資料

教文通信 No.7 (電子版)

支部教研特集

教文通信 No.8 (電子版)

支部教研特集

教文通信 No.9 (電子版)

家庭科教育研究会県との懇
談会

1. 教文会議議長あいさつ

明けましておめでとうございます。
「過去—現在—新たな未来創造へ」

教文議長 寺尾真純

コロナ禍にあって第3波といってよい中、新たな年を迎えることとなりました。自宅で新年を迎えられた方が多かったのではと拝察します。日々報道を聞くに最前線にいるエッセンシャルワーカーに敬意をあらわす次第です。

コロナ禍において、生命、貧困や格差、生活のあり方、人間が関係の中で生きること等々、現代社会の課題や問題点が強く認識されることとなりました。学校や教育においても、教育本来の在り方の問い直しの機会となっています。

「失われた30年」といわれることもあります。この間、教育がますます政財界のための人材育成になってきました。コロナ禍においても、その流れが続き、Society5.0やGIGAスクール構想に則った施策が行われようとしています。

昨年10月には、中教審が「中間まとめ」を発表しました。ICT活用や「～全ての子供たちの可能性を引き出す、個別最適な学びと、協働的な学びの実現～」等を打ち出しています。ショック・ドクトリンとでも言える中、現場には補正予算導入でICT環境整備が入ってきています。使用に当たっては、先ず情報リテラシーや保守、長所短所を押さえ、実態と照らし合わせた上での冷静な判断が求められます。

教文通信 No.277 (紙版)

「コロナ後の教育はどうあるべきか」

勝野 正章さん

(東京大学教授)

教文通信 No.278 (紙版)

「資質・能力」論批判と教育評価

のあり方について

佐貫 浩さん

(法政大学名誉教授)

「教育は何を評価してきたのか」

本田由紀さん(東京大学教授)
講演会の報告

* 教文通信は、教文 HP の会員
専用ページでご覧になれます。

「個別最適な学び」に関しては、何を持って「個別最適」と言っているのでしょうか？

子どもの外から目標が設定され、コントロールされていく。学びを能力主義に基づいて個別化、自己責任化、そして自主性・自治能力が抜け落ちた「協働」に帰することになるのではないのでしょうか。

Society5.0 型教育は一層の教育の矮小画一化と市場化、教育の公共性喪失を促すものになるかと思います。

県下では「学びの指標」、高校入試制度、高校再編を巡る動きがありますが、誰のための施策なのかの間にどう答えればよいのでしょうか。内容とその進め方から問い直しが求められています。

教文会議は今年 51 年目を迎えます。本会は常に、生徒や教職員の成長、主権者・地球市民として平和な民主社会の発展に寄与する学びを追求してきました。目に見えない存在との共存は今後も続くでしょうが、大変なときだからこそ、小さな努力も積み上げる。

12 月の運営委員会では、困難な中、参加と共同のもと支部や研究会において様々な工夫や実践が報告されました。

遠隔で行われた会議にあっても、創造する主体として、自由闊達な活動のもと、日々の関係、実践の中から新たな日常の創造につなげたい、その思いを強く抱かせるものでした。

会員の皆様には健康に留意いただき、今後も実践、検証、研究活動を様々な面から追求して頂きたいと思います。

災禍にあっても 50 年の歴史を引き継ぎ、探究・交流を進め、平和、真実を貫く民主教育の確立・発展に前進する年としましょう。



2. 第2回運営委員会報告

教文会議第2回運営委員会

2020.12.20. 14:00～16:18 オンライン

1. 経過報告

- ・「学びの指標」について朝日新聞からの取材あり
- ・2021. 1.23 第4回総研について
 - ・ 1.30 高校教育シンポジウム それぞれ申し込みを

2. 議題

(1) 支部中間報告

- ・高水須坂 参加者少なかったが講演会、分科会とも開催
- ・長水 オンライン講演会のみ開催
- ・更埴 報告書の通り
- ・上小 5者共催だが、集合しない形で開催。Webでレポート公開
- ・諏訪 報告書の通り
- ・佐久 報告書の通り
- ・上伊那 講演会オンライン開催、オンライン化で参加しやすい状況もあった
- ・松筑 教文のHPを作成した。メールのみでは困難さがある。
支部教研は学校ごとにZOOM参加
- ・下伊那 支部教研は中止。映画「朝が来る」を視聴することにした(映画館)
- ・安曇

(2) 研究会中間報告

《教科別》

- ・社会 まだできていない
- ・外国語 計画はあったができていない
- ・理科 報告書の通り MLやブログで交流
- ・美術 今後、できることを検討
- ・書道 報告書の通り、1校1名科目なので情報共有をしばしば行った
- ・家庭 基礎調査、県との懇談会実施。
学習支援員配置により調理実習の分割実施ができた学校があった。2月にオンライン研修会を予定している。
*本部で契約しているZOOM2本、ウェビナーもご利用ください。

- ・情報 GIGAスクール構想で現場での混乱、係になると振り回されている。今後も新CSも含め、必要な研究会なので会員になって欲しい。
- ・職業 1/31に全県研究会を計画していたが中止
- ・学校保健 自校での集団発生の不安を抱えながら業務。生徒の緊張も。2009年度の新型インフルエンザの対応を再共有。研究会の講演の概要を報告。ZOOMのレコーディング機能、グループ討議も実施。実践事例の共有が課題。

《課題別》

- ・定通 会員の固定化、減少
- ・図書館 集まれていないが、これまでの講演会講師の一覧を作成している。コロナ禍でできることを考えていく。

- ・生活指導 役員の人选と引継ぎが課題。特別支援研究会に参加して講演会コラボ
 - *昨年度は総研、今年度は総研に位置付けられず、生活指導と特支のコラボとなった。
 - ・進路 (例年の就職アンケート実施中)
 - ・ジェンダー平等 「性教育」から今年度名称変更した。
- 《特設》
- ・教育史教育法 会員数が少ない。
住民運動の盛り上がり、霧ヶ峰メガソーラー、夫婦別姓

(3) 職場教研 8校9回実施

以上まで、質疑…なし

(4) 評価 (5)ICT

- ・「学びの指標」12/21 県教委 決定事項として教育長から報告される予定
12/10 教文部と県教委の懇談の報告、資料説明
- ・教育課程研究協議会用「カウンターレポート」昨年度のもの
今年度は未実施、代替え資料を学校に配布 県は観点別評価を扱う予定であった

(6) 体勢確立 3/27 引継ぎの準備をお願いします。

(7) 会計 9/30 分まで報告 教文会員の減少。

(8) その他 総研、シンポジウムの連絡
「こども白書」

以上まで、質疑…「学びの指標」について勉強したほうが良い。研修会を設ける。
